

問 带状疱疹とRSウイルスワクチンの導入は 答 疾患や国の動向などに注視していく

遠山優太議員



問 空き家活用と住宅支援の推進は 答 町内業者や団体と連携を強化したい

带状疱疹ワクチンの普及に向けた本町の考えは

带状疱疹は50歳から発症リスクが急増し、高齢化が進む本町においても患者の増加が見込まれる。

国の動向や定期接種化に先駆け、たつクチンに対する公費助成制度を導入する考えは。

奥山町長

疾患に関する啓発に努めながら国の動向などを注視する。

○再質問

带状疱疹ワクチンの助成は、現在38市町村が導入済みであり、4月以降は60を超える自治体が導入見込みであるが。

奥山町長

受け止めて対応していく。

高齢者の肺炎予防対策は

近年、国では肺炎による死者の98%が65歳以上の高齢者であると示されている。

特に注意喚起されているRSウイルス感染症の60歳以上に対する任意予防接種費用の一部公費助成の考えは。

奥山町長

慎重に検討したい。

空き家の活用方策は

令和6年度の予算では、移住定住促進事業の拡充を計画しているが、空き家を活用した移住定住促進を目指した今後の方策は。

奥山町長

空き家の増加が見込まれることから、所有者に直接空き家バンクの登録を働きかける。

○再質問

多くの市町村は、移住定住促進を目的に独自の住宅支援を推進しているが、本町の支援や補助に対する考えは。



奥山町長

地域おこし協力隊や他の自治体の取り組みを含め、情報収集に努める。

○再質問

今後、移住定住促進に対して他の市町村と差別化を図る構想はあるのか。

辻副町長

現在、構想や計画は持ち合わせていないが様々な情報を集めて取り組んでいく。

○再質問

移住定住促進に向けて、町内の業者や団体と連携を強化していく考えは。

奥山町長

い。今後も連携を強化していきたい。



▲空き家・空き地バンクの詳細は和寒町ホームページをご覧ください。

